

# 地球科学輻合ゼミナール

## (2008年度 後期 第7回)のご案内

地球史・環境史のなかでの脊椎動物の進化史

松岡廣繁(地鋳・生物圏史・助教)

### 講演内容の紹介:

生物進化の機構の根幹は、「変異」とそれに対する「自然選択」である。ここで言う「自然」とは「環境」とほぼ同義である。それはその場の「気候・気象」「水況(水深・水温・波浪の状況など)」「化学的特性」「堆積環境」「地形」・・・といった、多様な物理化学的環境をさす。

さらにもうひとつ、生物にとっては独特の「環境」がある。「生態系」という生物学的環境である。ある生物は他の生物群の中でこそ進化し独自のニッチを獲得するのである。言い換えれば生物にとっては、自身が環境の一部、あるいはその場その時の環境においてのみ自身も存在するのである。研究対象(生物)と地球環境とが不可分の存在、共進化する存在、と認識しているところが地球科学における古生物学のユニークさだと思う。

今回のセミナーではこのような観点から、1)5億年間の地球環境変遷と脊椎動物の大進化;2)日本列島の中新世の海況と“飛べないハクチョウ”の出現;3)更新世-完新世境界に生じた陸上脊椎動物相の絶滅現象と琉球弧の固有動物相の成立、について紹介し、古生物群の研究と地球史・環境史の関係を考えてみたい。

11月19日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 201号室